

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第62回 神宮式年遷宮



平成25年(2013)
御鎮座950年式年大祭

平成25年(2013)
皇紀2673年

奉祝 御鎮座950年式年
御鎮座950年式年大祭号【第96号】
<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

主な目次

式年大祭にあたり	2頁
御鎮座950年式年大祭を迎えて	3頁
奉祝行事 小笠原流流鏑馬神事	5頁
御鎮座950年式年奉賛者芳名	6頁
杜の話題	7頁
初宮詣芳名・どんぐり通信	10頁
奉祝行事 フォトコンテスト	12頁



「江戸名所図会」より

式年大祭にあたり

宮司 鎌田 紀彦

今年は例年より桜の開花が十日余り早く、彼岸前には境内の辛夷（田打桜）が満開となり、隣接の染井吉野が負けじと妍を競い咲き誇っていました。

古来、種まき桜とも云われるように山桜が咲き初めますと苗代をつくり種粉が撒き始められ、その年の農作業が始まります。

そうして自然界の草木も内在する力を溜め増殖していた「ふゆごもり」から外へ張り出す「たまきはる」、春の息吹きの訪れを告げ初めます。

当宮は今年御鎮座九百五十年式年の佳節を迎え燃え出する若葉の好季節のわかば祭りを「式年大祭」としてご奉仕させて頂きます。

三年前の應神天皇壹千七百年祭のときも八幡大神様の広大無辺なご神徳を景仰しご神威の発揚を乞い願うご奉仕させて頂き、その余光が輝やく中に当宮が式年大祭を迎えさせて頂いていることは有難いこととでございます。

しかもいよいよ今秋には神宮で第六十二回式年遷宮が行われ、この程十月二日に内宮、五日には外宮の遷御の儀が御治定（陛下がお定めになること）になりましたし、五月十日には出雲大社でも平成の大遷宮が行われます。神代から連綿と受継がれて来ました神事が今に蘇えると云うことは、神々のご神威も神代に立ち返って



清新によみがえられ、その恩恵により、あらゆるものの生命も蘇えり、国も若返って清新な若さを取りもどし永遠の発展を祈念するのも遷宮と

云い伝えられています。

私も神職もその神祭りの心を受継ぎ、祈りと感謝の誠の心を新にしてご奉仕させて頂き、更に子孫へと伝えて行かねばなりません。

この有意義で大切な尊い年の巡り合せに浅からぬ不思議なご神縁を感じとらせて頂き、身の引き締まる思いでございます。

更に奉賛会の記念事業に対するご奉賛も氏子六地区の実行委員（役員・総代）様のご理解あるご尽力により、ご浄財の勸募活動を展開して頂き、地区目標に向けご努力頂いていることに敬意を表する次第であります。

ご祭神におかれましても定めしご奉賛の皆さまの赤誠の真心を充分にご嘉納下さり御祝福御守護り下さっていることと拝察させて頂いております。

鎌倉時代の貞永式目に、

「神は人の敬により威を増し

人は神の徳によって運を添ふ」

とありますように、この度のご奉賛の皆様方の真心からのご敬神の念によるご奉仕やご参詣頂くことによつて大神様のご神威や有難さが一段と高く発揚され、氏子崇敬者の皆様も、大神様に祈りと感謝を捧げ御心を頂かれることに依つて更によりご神威の高いご神徳が受けられ、益々繁栄し発展することの出来る運が開かれると云うことであります。

当宮でカップルの良縁のみならず、仕事の縁

人々の縁などあらゆる縁が結ばれ、成就するようとの願いを込め、又縁は丸い円に通じ巨繋がりますと始めがあつて終わりのないのが円と、十数年前より奉製し授与させて頂いている「えんむすび守」がこの程テレビで採り上げられました。「パワースポットの大宮八幡宮」と、桜の開花に合わせた様に紹介されたことが反響を呼び、連日多くの参詣者で

ご社頭が賑わっておりますが、これも又、当宮の御鎮座九百五十年式年のご縁に繋がるものと思わせて頂いております。

如何に多くの方々が、大神様のご神威を崇められ、心の安らぎ、心の癒し、清新さを求めてお参りされているかが伺い知らされます。

大神様との佳きご神縁を結んで頂かれますよう職員一同心からのご奉仕をさせて頂いております。

言うまでもなく氏神神社は私共のご先祖様達が稲作を共同作業で行っているうちに神々に五穀豊穣を祈り（春祭り）、豊作を感謝する（秋祭り）場として祀られてきたところであり、謂わば神社は公的な祈りと感謝を捧げてきたところでもあります。

しかしながら、戦後今日のように都市化と共に核家族化が進みますと、家族制度の崩壊と共に家庭祭祀の伝承も断絶し、親子の絆までが薄れつつある世情の中にあつて、特に東日本大震災後は特定の神社に詣で、個人救済的な祈りと感謝を捧げる人々が多くなっている様に見受けられます。

神々のご神威の高い神社に詣で、その神々のご加護により恩恵を受けられた多くの方々やそのご家庭が幸せになられご家業が繁栄されますと、やがて家庭が円満で家族間の絆も深まり、夫婦愛や家族愛は隣人愛、郷土愛へと、人と人との縁や絆も深まり、住みよい地域社会・町づくりへと進み、やがては国家の安泰へと繋がっていくものと思ひます。

八幡大神様の広大無辺なご神恩に感謝しつつ、御鎮座九百五十年式年大祭に神社本庁の献幣使のご参向を仰ぎ、厳肅に盛大に賑々しく齋行させて頂くと共に、多くの奉祝奉納行事や神賑行事を通じて蘇られる大神様の清新で、よりご神威の高められたご神徳を戴かれますよう、多くの氏子崇敬者のご参詣を心よりお待ち申し上げます。

御鎮座950年式年大祭を迎えて

本年平成25年は当宮御鎮座九百五十年式年の佳年に当たり、来たる5月3日から6日の間、式年大祭を斎行致します。先ず3日午前には式年大祭第一日ノ儀、午後にはこどもの祭（稚児健康祈願祭）、稚児行列・神輿渡御。4日午前には第二日ノ儀尚武祭を奉仕。5日午前10時より献幣使のご参向のもと式年大祭当日祭を斎行。神社本庁よりの幣帛が大前に献じられます。また6日には第四日ノ儀、挙式者の集い開催奉告祭や植樹祭が奉仕されます。5月11日には裏千家献茶式、18日には大宮八幡宮の杜新能が奉納。そして5月26日には御鎮座九百五十年式年最大の奉祝行事となる小笠原流流鏑馬神事が斎行されます。

顧みますれば第70代後冷泉天皇の御現になり、宇佐八幡宮に祀られました。代、鎮守府將軍源頼義公が、子息義家公 平安遷都がなると「吾れ都近き男山の（八幡太郎）等を引き連れ奥州安倍氏追討 峰に移座して国家を鎮護せむ」と神示貞

に向かう途次、この地で八条の白雲の瑞祥 観元年（八五九）石清水八幡宮（当宮のを見、見事戦勝を得て凱旋の帰途康平6 本宮）が鎮座されました。やがて八幡大年（一〇六三）、京都の石清水八幡宮の御分霊を勧請、当宮が創建されました。

当宮の御祭神は八幡大神と讃えられる すが頼義・義家父子の当宮創建は東国で第15代應神天皇（品陀和氣命）とその御父仲哀天皇（帶中津日子命）、御母神功

皇后（息長帯比賣命）の三柱の大神である 共にと共三十三の朱印領を受け、多摩の大ります。神功皇后は應神天皇を胎内に宿宮、武蔵乃國八幡宮と称えられました。

したまま新羅征討に向かわれますが、「胎 昭和39年の御鎮座九百年記念事業では、中の御子に三韓が歸す」との天津神の神 御本殿を始め現諸殿舎や清涼殿の竣功を示から應神天皇は胎中天皇とも称され、 見、境内の輪奐の美が整えられました。

神功皇后摂政元年（二〇〇）にお生まれ となりまして。帝はそこご治世で されてより一七〇〇年を迎え、当宮でも阿知使主の渡来など半島との接触、論語 壹千七百年式年祭を斎行させて頂きま

や千字文など大陸文化の移入などを行 したが、その後の内外の国情を見るに、現

い、わが国の国威を大いに輝かせました。 今、正に元寇に迫る国史上稀なる危難が

第29代欽明天皇32年（五七二）、笹の葉 訪れていると言わざるを得ません。

に乗った三歳の童子が九州宇佐の地に現 当宮御鎮座九百五十年式年大祭の斎 幡八幡磨なり、我が名は護國靈験威力 致すとともに、改めて八幡大神の广大無 神通大自在王菩薩」と託宣され、應神天 辺なご神徳を景仰し、その厳しきご神威の 皇崩御の二六八年後に八幡大神としてご示 発揚を伏して請い願う次第であります。

大宮の杜 今昔



弓道場（振武殿）



元ご神木



旧社殿内



旧ご社殿



山岡鉄舟の大幟



菩提樹



方石担ぎ手



表参道



境内風景



現社殿



神饌田



都天然記念物(大宮八幡の社叢林)を示す高札



表参道入口の黒門

御鎮座九百五十年式年大祭 祭典・行事日程

Table with 7 columns: Date (月日), Day of Week (曜日), Time (時刻), Ceremony (祭典), Time (時刻), Event (神賑行事), and Blessing (奉祝催事). Rows include dates 5/26, 5/18, 5/11, 5/6, 5/5, 5/4, 5/3, 5/1, and 5/29.

Table with 4 columns: Date (月日), Day of Week (曜日), Time (時刻), and Event (神賑行事). Rows include dates 5/26, 5/18, 5/11, 5/6, 5/5, 5/4, 5/3, 5/1, and 5/29.

※流鏝馬神事については、陪観指定（御祈願料・先着申込み）がございまして、お申し出下さい。

神輿渡御し稚児行列が

5月3日午後、こどもの祭り（稚児健康祈願祭）に続き御鎮座九百五十年奉祝の第35回稚児行列が催されます。



行列は高下駄を履いた道開きの神「猿田彦」の導きで可愛いお稚児さんや、佼成学園吹奏学部、役員総代などが続き、特に今年は午前10時より第一日の儀に併せて神輿神霊入れ祭を行い、稚児行列に神輿渡御も行われ、宮司が供奉。神門より南参道、大宮八幡前交差点、大鳥居、表参道の13キ口を進みます。

大宮八幡 植木市

表参道では新緑の風物詩「大宮八幡植木市」が式年大祭を奉祝して期間中の3日〜6日にかけて、開かれます。陽光降り注ぐ参道に並べられた新緑の苗木や花々、園芸用品などを求め、多くの方が訪れます。またこれら植木の他にも、露店なども出店しております。ぜひ、ご参拝に併せてお立ち寄り下さい。

裏千家献茶式

大宮八幡宮御鎮座九百五十年式年奉祝の第14回茶道裏千家献茶式が5月11日に執り行われます。当日は午前10時より献茶式を斎行。お家元ご名代によるお点前で濃茶、薄茶が大前に奉献されます。また境内では裏千家淡交会東京第七東支部担当の奉賛添茶会が開かれるほか、大宮幼稚園では幼稚園茶席も催されます。

大宮八幡宮の杜新能

御鎮座九百五十年式年奉祝の第10回大宮八幡宮の杜新能が5月18日午後6時より当宮境内で催されます。新能はNPO杉並で能楽を楽しむ会（田木千城夫会長）主催、杉並区教育委員会の後援で能楽師野村四郎氏等観世流一門の皆さんのご奉仕により実施。火鑪神事により熾された浄火の篝火のものと舞囃子「高砂」、狂言「文山立」、能「船弁慶」の各一番が奉納されます。なお陪観券等詳細は当宮社務所迄お問い合わせ下さい。



お立ち寄り下さい。

第9回の写真です



お問い合わせ下さい。

御鎮座九百五十年奉祝 小笠原流流鏑馬神事を齋行

馬場入り前の流鏑馬行列

特設馬場で鎌倉絵巻が

当宮はその御鎮座より武門の神として多くの武人の崇敬を受けてまいりましたが、古来より行われてきた流鏑馬の神事が御鎮座九百五十年の中心行事として5月26日(日)午前、第31代宗家小笠原清忠氏ら小笠原流一門奉仕のもと齋行されます。

当日の午前10時、まず社殿にて奉納奉告祭を齋行。宮司の祝詞奏上に続き、奉行による祭文奏上。流鏑馬執行の責任者である総奉行が流鏑馬奉納の由を八幡大神様にご奉告申し上げます。

奉告祭終了後、午前10時50分頃より馬場入りの儀。神事旗を先頭に騎馬の宮司、総奉行、日記役、一之射手、二之射手、三之射手。そして徒士の柘筆、幣振、采揚役、矢拾い、的持などの流鏑馬行列が神門前を出発。南参道より方南通りを通り大宮八幡前交差点を左折、表参道大鳥居より神門に至る13キロの行程を進みます。

そして、いよいよ午前11時半より流鏑馬神事の開始。奉行が流鏑馬始めを一之射手に告げ、的奉行の指図での立が的を懸げます。そして馬場の始めと終りに居る馬場元役と馬場末役が馬場の安全を確認、紅白の大扇を掲げて合図を送ります。

流鏑馬とは馬を馳せ、馬上より鏑矢を放ち、次々に的に当てる武技であり、古くは武者の鍛錬を目的に盛んに行われておりました。室町時代に一時廃れましたが、徳川吉宗により再興され、以来小笠原流と細川流(旧武田流)として現在に継承。いまなお古式に則り、神前での神事として各地で執り行われています。

次いで玉串拝礼のあと弓矢授与。大前にお供えされ、祓い清められ、神威を蒙り破邪、蹴正の力を持つ弓矢が奉仕の射手に授けられます。社殿前にて奉幣の儀が執り行われますと、奉仕員らは揃って馬場へと進みます。

とくに綾藪笠に鍔直垂、行際には太刀を佩き、右手(めて)に塗鞭、左手(ゆんで)に重藤の弓を握る揚装束(流鏑馬装束)の射手姿はまさに鎌倉の若武者振りを彷彿とさせます。

同時に憂々と馬蹄の音を轟かせ射手が神門より大鳥居までの表参道特設馬場174メートルを疾駆し、馬場を走り抜け、鋭い気合いとともに一ノ的、二ノ的に矢を放ち、一瞬の内に射止めます。采揚は矢が的に的中したか否かを采を振って合図、記録役がその成否を記録します。

小笠原流始祖長清公も奉仕

当宮を創建された源頼義公の数世の末孫、源頼朝公は治承4年(一一八〇)当宮社殿を修造、9月15日に大祭を齋行、流鏑馬や大的式を執り納めたと伝えられ、「大宮八幡宮由来」では「右大臣頼朝公の御時、相州鶴ヶ岡八幡宮と同じく、当社の神殿・僧坊を造営し給ひて、大的の射手駆ひきの騎兵を催し、祭礼の式をなし給へり」と記されております。小笠原流始祖の小笠原長清公もこれに奉仕、後には頼朝公の絆方(弓馬術礼法方)を務められたとされます。

下つて源家の棟梁を継いだ徳川家康公は天正19年(一五九二)当宮に朱印三十石を寄進され、のち越前福井藩藩祖松平秀康公の側室清涼院殿の奔走尽力により、元禄10年(二六九七)の境内大改造で以前の南面より、江戸城護護の東面の社殿が造営されました。この元禄以前、社殿南面時代には現表参道は東西に亘る馬場として流鏑馬が盛んに行われていたようですが、江戸期、境内の射場では各流派が弓箭練磨を競い合ったことが小笠原流門弟を始めとする多くの流派の奉納額によって明らかになっています。



(写真撮影：森山雅智)



(小笠原流 宗家提供)

杜の話題

御鎮座九百五十年式年 平成25年新春の表情

いよいよ迎えた御鎮座九百五十年の元旦。晴天には恵まれましたが数十年に一度の稀に見る寒気のため、大晦日深更より境内参道には



多くの参拝者が詰めかけ年明けを待ちました。そして午前零時、一番太鼓とともに開門。観世流能楽師野村四郎氏の神能「翁」の奉納に続き新春厄除開運大祈禱祭（一番祈禱）を奉仕。祈願の皆さんには宮司禱書の干支絵馬や一番祈禱熊手などが授与されました。

午前2時、宮司により多摩清水社の若水が汲まれ、神前にお供えされ、午前8時よりは歳旦祭。皇室国家の安泰・氏子地域の平安が祈られます。また午前には立正佼成会庭野日鏡会長様始め幹部の方々も参拝されるなど初詣の参拝者で境内は大変賑わいました。



翌2日午前、境内にて宗家小笠原清忠氏ほか小笠原流一門により天下の邪悪を祓う弓の除魔神事「曇目の儀・大的式」を執行。次いで3日

午前には皇位の大元の始めをことほぐ元始祭が斎行され、三が日は十数万余の参拝者で賑わいました。

東日本大震災復興祈願祭

3月11日の東日本大震災より早や2年が経ちました。が、当宮では3月15日、東日本大震災復興祈願祭に併せて月次祭を斎行。宮司以下祭員と参列者の全員で大祓詞を奏上、犠牲となられた方々の慰霊と鎮魂、そして被災地の日も早い復興を祈念致しました。



また震災当日の11日は朝御饗祭の朝拝時に神職職員で大祓詞3巻を奏上し、発生時間の午後2時46分、ご参拝の方々と俱にご社殿前で1分間の黙禱（写真）を捧げました。

当宮狛犬が区有形文化財に

当宮の石造狛犬一対が杉並区の有形文化財に指定され、去る3月22日、指定書が当宮に授与されました。

平成24年度の杉並区有形文化財（彫刻）として2月13日に指定されたのは当宮明和8年銘石造狛犬一対。安山岩に彫られ、向かって右に阿形像、左に吽形像を向き合わせて配置。阿形像は高さ53cm、幅21.5cm、吽形像は高さ52cm、幅22.7cm。両像はほぼ同じ寸法で、僅かに吽形像の顔と体

軀の幅が大きめ。三段からなる台石には、阿吽両像とも上段正面に「奉獻」、裏面に「明和八年卯年 冬十一月吉日 願主岩崎所左衛門」と銘が刻まれ、奉納年（七七七）と願主名が確認出来る。もとは本社の前に安置されていたが御鎮座九百年のおり、若宮八幡神社前に移設。指定の理由として、この狛犬は屋外に安置されるものとしては、区内で最も古いもの二つの内の一つで近世中期の狛犬の特色を示し、また同期のこの地域の文化・社会組織などを物語る資料として貴重であるとしています。



平成24年度の指定登録文化財はこの狛犬と杉並能楽堂舞台。当宮での指定は境内出土鎌倉時代の瓦、豊臣秀吉の制札、木造隨身坐像（2軀）、力石（14個）に続くものです。

山下氏社殿前大提灯奉納

当宮の熱心な崇敬者であるO・F・Oシステム、西新宿デンタルクリニック院長山下道也氏より社殿前提灯一対・境内末社提灯各一対をご奉納頂き、正月の初詣参拝者を迎えました。



◆役員就退任報告

【就任】責任役員（松ノ木） 瀬沼 宏章
（4月1日付、但し任期は平成26年3月31日迄とする）
【退任】責任役員（松ノ木） 瀬沼 寿男
（平成25年3月31日）

山東様 天満宮鈴緒奉納

この程、御鎮座九百五十年を記念して大宮天満宮に鈴緒が奉納されました。去る1月11日に奉納奉告祭が斎行され、奉納者の山東洋子氏・亜希子氏が参列、天満宮にて玉串拝礼。次いで、宮司より感謝状が贈呈されました。



勸学祭ランドセルお祓い式

小学校入学を祝いお子様の成長を祈念する「勸学祭・ランドセルお祓い式」が3月30日と31日の両日午前執り行われ、大きなランドセルを背負って希望に胸を膨らませた新年生達が参列しました。



御鎮座九百五十年式年記念として始められたもの。古来より初宮詣や七五三、成人式など人生の節目には神社に詣でましたが、新入学も大きな節目で人生儀礼の一つとされています。

かきつばた(折鶴)のご奉納

3月30日、堤公長宮内庁掌典(二)家が来社され、かきつばた(折鶴)の苗をご奉納頂きました。



花びらが垂れずに折り紙の鶴に似た形で、白地に密な紺紫色の花を咲かせることからこの名が付いたとされ、江戸時代より天皇が愛好され、京都御所にて栽培されていたものを、光格天皇の御代に代々大納言としてご奉仕しておられた大原家祖先の重徳卿が直々に賜った品種。更に光格天皇(ご遺愛のかきつばた)として親族の堤家に伝わり、株分けをされて今に伝わる苗を、この度の当宮御鎮座九百五十年を記念してのご奉納となりました。開花のとき、ご神前にお供え致します。

杉並宗教者懇話会開かれる

杉並区宗教者懇話会の春季懇親会が去る4月2日、区内の神社神道・仏教・基督教・諸宗教の宗教者50名が参加して当宮で催されました。

午後、昇殿参拝の後清涼殿で懇親会を開催。代表幹事である当宮宮司が歓迎の挨拶を述べた後、カトリック下井草教会信徒代表の渡辺富士子様が、この程実



施され大きな関心を呼んだコンクラーベ(新ローマ法王選出)の歴史について解説。次いで堀之内妙法寺の松岡教詔執事長の乾杯の発声で、和やかな内に懇談が行われました。

パワースポットとして

日本テレビの番組「世界まる見え!テレビ特捜部」で、縁結びのパワースポットとして当宮が取り上げられました。以前よりブログなどで色々と紹介されておりましたが、ミスター都市伝説の関暁夫氏が「全ての縁、調和をもたらす神社、妖精に出会える神社」と紹介。

ご社頭は、折からの桜の開花と春休み期間中と相まって、連日多くの参拝者で賑わいました。

善福蛙立ち上げ集会 特別対談

護岸工事されコンクリートで固められた善福寺川を緑豊かな里川に戻そうと立ち上がった杉並区の環境市民団体である、善福寺川を里川にカエル会(通称:善福蛙)の会員らが4月6日午前、当宮に集合。由緒の説明を受け、善福寺川流域を視察。

次いで午後2時より、立ち上げ集会を西荻地域区民センターにて開催。そのプログラムの一つとして



氏子青年会だより

氏子青年会会員の皆様により、1月1日の新年早々より御神酒の振る舞いと八幡そばの模擬店を出店し、初詣参拝者の皆様を迎えました。そして3月9日には、

昨年2月の結成から二年が経過した当氏青会員らと高円寺氷川神社と馬橋稲荷神社の氏子青年会の皆様と「氏青の集い」を開催。互いに懇親を深めました。

3月24日には、都氏子青年協議会の参拝研修旅行が行われ、井川会長、星野・鈴木会員らが参加。靖国神社・多摩御陵を参拝し、他氏青会員らとの親睦の輪を広げました。



境内でドラマ撮影が

当宮宮司と東京工業大学教授 桑子敏雄氏による特別対談が行われました。

4月4日午後、CSFジジのドラマ「イタズラなKiss」の収録が行われました。キャスト・スタッフ・エキストラを合わせ100名近い人達が集まり、当宮を舞台に正月参拝風景のシーンが撮影されました。



りんどう会だより

当宮敬神婦人会(りんどう会)では、2月13日に鎌田会長以下47名の会員が参加し新年会が賑々しく催されました。清興として、山崎雅子氏による日本神話をモチーフとした舞踊が披露され、天女のような舞に、一同は魅了されました。

当会では随時会員を募集しておりますので、ご入会希望の方はお気軽に事務局(社務所)へお申し出下さい。



戌の日詣りは

子育八幡さまの当宮で安産祈願のご祈禱を!

※戌の日以外も随時受け付けております

ご祈願の方には安産腹帯(天宮八幡息長帯)と共に、へその緒(結ばれた母子が健康にご出産の時を迎えらる様にとの願いが込められた「母子緒守」と安産祈願給馬を特別に授与致します。

戌の日早見表(平成25年5月〜9月)

9月	8月	7月	6月	5月
5日(木)	12日(月)	7日(日)	1日(土)	8日(水)
17日(火)	24日(土)	19日(金)	13日(木)	20日(月)
29日(日)		31日(水)	25日(火)	

は大安の日です

大宮八幡の杜 春から夏へ

水無月夏越の大祓

恒例の水無月の大祓神事（夏越の大祓）が6月30日午後4時より神門前表参道で斎行されます。大祓は古来から国家の重儀として水無月（6月）と師走（12月）の晦日に行われ、私共が知らず知らず犯した罪や心身の穢れを祓い清める神事です。



当日は神職の大祓詞宣読に続き参列者等は頷たれる形代で全身を撫で、息を三度吹きかけて罪穢を移したのち、茅の輪を左右左と潜る茅の輪神事を行って残る半年の無病息災を祈ります。

おほはらえことは 大祓詞書写会

夏越の大祓に併せ、大宮八幡塾「水無月書写会」（大祓詞書写会）が今年も6月15日より23日までの9日間、当宮茶室で開催されます。

書写会は当宮教化活動の一環として当宮敬神婦人会りなどとう会との共催で毎年開かれています。書写会は心身を静め大祓詞を書写し、神前に納めることにより大神様の

ご神威に触れ、そのご神徳を頂くもので、浄書された大祓詞は大祓に続いて斎行される奉納奉告祈願祭にて神前に奉納されます。

平安の雅第15回乞巧奠飾りと 大宮八幡乞巧潜り神事

平安の七夕行事第15回「乞巧奠飾り」が7月1日より15日の間開催され、期間中神門前には大宮八幡乞巧潜りや大笹飾が設けられます。乞巧奠飾りは牽牛織女や棚機つ女など中国日本の伝説を元に、学業技芸の上達を祈って平安時代より宮中を中心に行われてきた七夕行事。



期間中当宮清涼殿ロビーには乞巧奠飾りを再現展示。七夕当日の7日夕刻6時よりは社殿にて七夕の神遊び（技芸上達祈願祭）を斎行。次いで神門前に進み、五色布、梶の葉の下がる乞巧潜りを左右左と潜る乞巧潜り神事を執り行います。又、7日（日）及び13日（土）の夕刻には清涼殿乞巧奠飾り前にて「雅楽の夕べ」が催されます。

多摩清水社例祭

これからの盛夏の時期を迎え、水神様のご神徳を称え、生命の源の水の恵みに感謝する多摩清水社例祭が水の日（8月1日）に斎行されます。

多摩清水社は「霊の清水」とも詠まれ、御神水が湧き出る水神様のお社です。例祭は本社朔旦祭に引き続き奉仕されます。

納涼大宮天神まつり

当宮の夏の風物詩「納涼大宮天神まつり」が天神様・菅原道真公のご縁が7月25日の夕刻、執り行われます。第13回を迎えた今年は午後5時半、境内大宮天満宮で大宮天神祭を斎行。近隣小中学校、幼稚園や一般から奉納の書画行燈数百基が点灯されるなか、子供達による「あかり神輿」が境内を渡御します。続いて「杜のひびきinおみや」（時間を外した日の祭事）として和太鼓の奉納演奏が行われ、「子供のミニ花火の集い」も開かれます。



また前日には天神祭宵宮祭が奉仕され、両日共夕刻には当宮氏子青年会による模擬店も出され、夏の宵に夕涼みを兼ねた参拝者の方々で賑わいます。

第30回戦没者慰霊祭

第30回 大宮八幡宮戦没者慰霊祭が終戦の日（8月15日）正午より、同実行委員会主催により斎行され、氏子出身戦没者329柱のご英霊のみたまなごめの祭典が奉仕されます。

式年大祭後の主な行事

御嶽様名神社例祭	5月16日
第34回大宮さつき展	5月下旬～6月上旬
大祓詞書写会	6月15日～23日
夏越の大祓・茅の輪くぐり	6月30日
第15回乞巧奠飾り	7月1日～15日
大宮八幡乞巧潜り神事	7月7日
七夕の神遊び（技芸上達祈願祭）	7月7日
雅楽の夕べ（雅楽と神楽舞）	7月7日・13日
第13回納涼大宮天神祭り 書画行燈掲出	7月25日
第13回杜のひびきinおみや和太鼓演奏	7月25日
多摩清水社例祭（水神祭）	8月1日
第30回戦没者慰霊祭	8月15日
第13回十五夜の神遊び	9月21日

御鎮座九百五十年式年奉祝大祭

（大宮八幡祭り）祭典日程のお知らせ

本年度の大宮八幡祭りは、左記の日程により斎行されます。

*神輿神霊人祭・若宮八幡神社並白幡宮例祭は9月13日（金）に斎行する

*宵宮祭は9月14日（土）に斎行する

*式年奉祝大祭（例祭献幣使参向氏幣奉幣、神輿合同宮入）は9月15日（日）に斎行する

*神輿神霊返祭は9月16日（月・祝）に斎行する

初宮詣芳名

(平成24年11月24日〜平成25年3月19日敬称略)

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

- 周生瑛太 菊地悠斗 平間煌明 宮崎凜史
- 坂洋希 高橋志椋 吉田妃穂 黒木花枝
- 玉木純理 永田京 河本真名香 鈴木良
- 藤田晴成 首藤美琴 山内豊将 田村優成
- 田中唯斗 上村凜 新島音 針谷奏衣
- 木村漣 保泉吏良 入江絢菜 加藤瑛人
- 橘芽生 木島圭偉 遠藤旺資 家田拓翔
- 安座間丞成 浅田茉友 加藤碧羽 加納遥
- 山崎橙治 中島心杜 平栗碧織 平島英明
- 岩田龍星 土屋友萌香 北村大馳 辻愛梨
- 外川美咲 今村泉澄 星川純 五十嵐亮祐
- 上原真真 松葉圭介 加藤碧音 井上品仁
- 朝倉源生 松本蒼空 柴田香弥乃 伊藤有花
- 齋藤慈広 廣澤咲季 打木沙龍 吉岡逢南
- ミヅ・優子 甲斐新 亀江彩乃 寺田祐子
- フィナ・優子 高久航世 長谷川莉帆 河邊泰良
- 豊留諒太郎 村山羽多 山本千尋 玉川琴音
- 石澤里央 岩山涼 児玉一樹 菅原奈南
- 原蒼太郎 武内風樹 飯塚通大 戸島瑛都
- 星野美希 千葉智穂 秋本勇介 貞光妃南
- 田中太織 鈴木和佳 水谷璃那 天野義之
- 土屋聡奈 西浦琴音 北條友己奈 藤崎光希
- 高橋杏理 吉原希実 北見健人 三森舟悟
- 前田悠有 吉原瑞希 野澤斗翔 時田陽平
- 池田孝三郎 鈴木楓 曾田珠香梨 村山千洗
- 渡邊千紗 西村実莉 吉野銀之助 奥山翔太
- 高野翔翔 田中楓 中野結月 俵大翔
- 井上美憐 両角和花 寺岡希来 黒川真由
- 仁尾柚花 新田十季也 小島英介 杉山太一
- 櫻田菜子 松田玲 中原凛々 熊谷玲那
- 金子結衣 森美玲 屋澤百佳 高木瑞季
- 岡安香歩 木本はる 佐藤松太 長坂結斗
- 野村一翔 田口あこ 横田朋也 星真梨花
- 佐藤恒汰 谷脇佳瑛 篠田陽太 山口悠里
- 小西紗矢 岡部かな 西尾龍紀 佐藤聡太
- 武藤達成 千々宮くら 豊田正太郎 竹紗也佳
- 中浦由暖 丸山陽 工藤陸人 黒木杏菜
- 大西海晴 森田美空 佐野実日子 川島慎一朗
- 石井凜 平川美絵 林逢人 倉品龍
- 関泰紘 重野志織 伊東龍佑 近藤志穂
- 原稜哉 市川悠翔 荒井リモ 加藤沙羅
- 宮田慶祐 梅本志織 古橋瑠子 久富孝之助
- 谷口敦斗 足立健 長尾衣真 小松羽向
- 鶴橋悠星 北島梨杏 酒井奏 齋藤利衣奈
- 西浦拓郎 星龍佑 澤花怜 武田志帆
- 白水佐和 平野伶俐 久保田楓花 清水珊瑚
- 土井遥稀 保東珠里 黒崎巴郎 鈴木侑
- フェレラ実 星野優芽 門松空良 吉岡佑宇
- 志茂尋太 ランペール 楠野雄也 小堀考太
- 小田晟廣 沖島枝巳 平山晏土 浦野ひかり
- 坂本将龍 乙戸結菜 岩下公祐 前田一乃心
- 上原里咲 戸川侑大 須田将史 北崎あさひ
- 橋本結生 大野佑衣奈 大川天照 木山小都
- 山下乃愛 高橋和真 渡邊碧 小林将弥
- 朝倉葵唯 松岡知仁 石田埜乃 山口結冬
- 米本怜愛 佐藤陽史 中村俊花 眞柄ゆり
- 上田海翔 大堀彩月 小林通規 鶴原寿道
- 大森千聖 小林遥規 横田健人 中西健真
- 岡光涉真 竹下湊 加藤京之介 杉田泰弥
- 辻拓己 高橋秀和 松村明潤 福島大河
- 木村芹奈 阪本凜久 渡邊真史 酒井稜太郎
- 小南晴輝 原田葵 後根陽太 坂田悠斗
- 金田隼人 谷内亮太 山崎文太龍 三ツ川瑠実菜
- 木内悠暉 政所実莉 山崎美桜 倉林政登
- 伊藤勢良 北浦慶太 金子ひなの 板倉颯介
- 菅原星空 北島未悠 助川優翔 中川恵介
- 野中茉乃 古川竜輝 渡邊雨芽 青山未来
- 藤岡里都 藤本貫路 石黒愛奈 野宮麻央



大宮幼稚園第63回卒園式

大宮八幡宮御鎮座九百五十年式年の大祭を迎える節目の年に大宮幼稚園では第63回卒園式を3月19日に挙行政致しました。人によっては還暦を数年前に迎えた事になるのですが、御鎮座九百五十年の事を思えば、幼稚園は生まれたばかりか又は生まれる直前ということになります。



しかしながら、今年の卒園児も東日本大震災復興を願って宮澤賢治の「雨ニモマケズ」の詩の朗読を披露しました。

おめでとぅ!! 皆勤賞

3月18日の第3学期の終了式に併せて、皆勤賞の賞状が園長先生より7名の年中・年少の園児に手渡されました。



元気に1日も休まず登園した園児たち。これからも健康に気をつけて皆勤を目指しましょう。

長い詩ですが良く覚えました。そして更に長い長文の「お別れの言葉」の中には宮司様よりご指導頂いた「神前拝詞(しんぜんはいし)」を皆で唱え、次々に思い出を語り、幼稚園で学んだあきらめない気持ち、思いやりの気持ち、素直な気持ちを大切にすること、最後に両親へ感謝の言葉を述べました。御出席頂いた御来賓の方々や保護者の方から沢山の拍手を頂きました。

こうして卒園していった子供たちを振り返ると、九百五十年の歴史に包まれた鎮守の杜で学び遊ぶ事の出来た子供たちは本当に幸せでした。

ここで培った様々なことは小学校生活にきつと生かされる事とおもい御祭神に深く深く感謝し参拝をさせて頂きました。

副園長 草村敏子

御鎮座九百五十年記念に

献木・銅板奉納のお願い

ご社頭では春に芽吹く緑に人々の心の潤いを願い、鎮守の杜の緑を守り育てようと、皆様方よりの献木のご協賛を承っております。

また、銅板に皆様のご芳名と願意をご記入頂きまして、ご奉納を併せてお願いしております。今後屋根の修繕等に利用させて頂き、皆様の祈りのこもった銅板によって大神様のお住まいをお守り頂きます。

献木初穂料 一口二、〇〇〇円
銅板初穂料 一口二、〇〇〇円

※年中を通じて承っております

- | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 石川英 | 森山雷叶 | 岡田愛美 | 吉見悠 | 山根一晟 | 土田心春 | 木下慧太郎 | 鎌田悠 |
| 塩谷千織 | 山本陽司 | 井出唯翔 | 今村一陽 | 鈴木ひかり | 高須悠天 | 磯貝朋宏 | 岩沢航汰 |
| 江龍通 | 高須賀勘太 | 鈴木柊陽 | 柿原陸乃 | 成田華 | 木村紗希 | 本村心乃 | 福山詠喜 |
| 加藤玲奈 | 小笠原和奏 | 横渡沙和 | 久保慶仁 | 谷原大輝 | 太田輝人 | 木下陽晴 | 仲美風 |
| 渡邊樹 | 北御門咲月 | 田村乃惠 | 榎坂浩人 | 菊地優花 | 木藤誠人 | 関花野子 | 小田侑芽 |
| 神田結依 | 山室悠人 | 岩崎雪乃 | 川上凜 | 千葉遥華 | 池内智哉 | 徳田蓮翔 | 鋼持幸太 |
| 小島一奏 | 鈴木千佳 | 関塚花 | 竹内崇人 | 白石侑愛 | 酒井風花 | 福田翔和 | 魚橋やよい |
| 小田嶋優衣 | 梶原脩太郎 | 城間結遼 | 本田流菜 | 吉田亮佑 | 北林美羽 | 小林碧依 | 井上芽彩 |
| 鶴野英菜 | 戸田翔士郎 | 高峰愛琳 | 藤田悠生 | 下野碧 | 松本咲希 | 大塚航生 | 井上直子 |
| 井上滯 | 中野美波 | 黒田陽加 | 山根一真 | 八木航 | 川崎百晴 | 河本悠佑 | 榊原友梨花 |
| 大森健太郎 | 朝蔭芽己 | 西川成瑠 | 八木遙菜 | 熊谷光稀 | 真鍋歌歩 | 永村陸 | 鈴木陽稀 |
| 山口裕太 | 河野叶芽 | 松岡弥禧 | 藤田彩羽 | 行方詢香 | 小林龍星 | 牧井瑛士 | 小手聖翔 |
| 坂本晟之介 | 炭谷萌衣 | 水上ひなた | 畑廣賢寿 | 高橋秀輔 | 清水かれん | 小西紗矢 | 吉田陽 |
| 高吉快治 | 小山朔太郎 | 三浦優月 | 梅島久義 | 山本航平 | 八幡樹音 | 劍持瑛大 | 安倍健 |
| 直江海登 | 杉本未奈実 | 山田愛 | 権野太一 | 渡邊眞子 | 水藤矢尋 | 池部杏奈 | 岡村大樹 |
| 上島理桜 | 中村洋介 | 岩谷美羽 | 江川結菜 | 澤征之介 | 重松千尋 | 関正晴 | 河西椋子 |
| 加藤悠輝 | 佐藤結仁 | 松山大輝 | 土屋開 | 平福王陽 | 佐藤悠斗 | 吉村岳 | 新田希花 |
| 横溝奏 | 高木歌乃 | 氏家颯大 | 北島颯大 | 久米陽大 | 加藤龍空 | 小澤奏音 | 岡本卓士 |
| 谷野結莉 | 司馬旭 | 江釣子颯大 | 岩田某那 | 長沢遼 | 小西慧菜 | 中田橙登 | 相田はな |
| ヴォーマン | 松尾颯太 | 中脇惟吹 | 福岡勝威 | 野村恭平 | 寺崎江舞 | 中村羽菜 | 山田晴太郎 |
| 怜生 | 竹内悠真 | 千穂七海 | 加藤明日香 | 松添晴太郎 | 大久保希美 | 藤部新大 | 小野光太郎 |
| 木島聖結 | 永井妙 | 土岐直輝 | 山下藍太郎 | 中村孝輔 | 北野泰一 | 小宇羅希子 | 平島冴果 |
| 井上陽向 | 平井葵己 | 清野知花 | 山崎音和 | 掛川実那 | 鈴木壮太郎 | 河野柊太 | 森田光軌 |
| 松原雪愛 | 渡辺詩 | 千葉怜奈 | 時田陸玖 | 今奈々美 | 菅原亮 | 高野愛莉 | 平塚仁菜 |
| 松澤莉桜 | 馬場竜治 | 富沢萌南美 | 山本春郁 | 惠暖真 | 五本木悠誠 | 朝井恆恆 | 安宅心優 |
| 中川諒大 | 金澤朋花 | 五色真悠 | 椎原花南 | 猪爪悠佳 | 松本あかり | 櫻井壮輔 | 林優希 |
| 須賀大稀 | 清永晃樹 | 白井沙紀 | 鈴木才映子 | 藤本諒 | 和田弦 | 櫻井瑛子 | 山際小春 |
| 鈴木七花 | 濱中新 | 當麻瑛太 | 畑野吾聡 | 佐藤莉愛 | 加藤朱莉 | 横木皇佑 | 梅田若菜 |
| 藤田梨月 | 出雲心琉 | 谷口正彦 | 濱谷隆太 | 佐藤英華 | 菅原花 | 椿優二郎 | 横山志朗 |
| 川口諒大 | 魚地咲良 | 嶋田有那 | 村瀬百合子 | 高橋悠 | 横山大靖 | 川口千翔 | 田中琴音 |
| 村山亮輔 | 徳山廉 | 蓑和想太 | 高橋由 | 杉山恵都 | 吉田恵望 | 岡本七晴 | 田畑奏介 |
| 津原彩乃 | ハトリッパ | 黒岩拓実 | 小菅結華 | 森優姫 | 新井悠叶 | 澤野花奈 | 浦野虹七 |
| 濱田直征 | 直江文信 | 梅田ひかり | 鶴岡宙 | 堤伯美 | 杉山千世 | 安達円慶 | 平野郁也 |
| 流田寧々 | 野田凱 | 佐藤悠利 | 地主夕里子 | 達川咲歩 | 加藤雅稀 | 保戸塚蓮 | 伊澤宏 |
| 黒羽龍之介 | 泉田環太 | 戸潤葵 | 鈴木勇凛大 | 本田結愛 | 佐々木南 | 勝山亜優菜 | 野澤翔太 |
| 山田泰輝 | 滑川政一 | 兼城喜咲 | 山根拓人 | 杉浦里咲 | 形部えま | 浅野風咲 | 猿渡志風 |
| 鎌田直晴 | 小林大珠 | 鈴木稀裕 | 板東栄真 | 鎌滝千織 | 橋本陽向 | 大坂田くるみ | 西脇寛人 |
| 藤原佐英子 | 伊藤大輝 | 前田翔太 | 鳥居新 | 安藤理緒 | | | |

お朔旦参り
「月参り御幣守護」を授与

当宮では古くより朔旦（一日）、十五日に月参りをされる参拝者の方々が多く、こうした方々に年間を通じて八幡大神様のご神威をお受け頂こうと、毎月1日の朔旦祭に合わせお朔旦参り「月参り御幣守護」の祈祷を奉仕しております。

幸福撫でがえる石

清涼殿を出た右手に「幸福撫でがえる」石があります。幸福が得られるようにと祈念して、当宮御鎮座九百五十年式年の記念に名付けられました。

結婚式や披露宴、あるいはお祝いの席の後に、ぜひ「幸福撫でがえる」石を撫でて、更なる幸せが訪れることを願っております。



結婚式挙式者芳名

- (平成24年12月1日〜平成25年3月31日、敬称略)
- 馬場敦之 美紀 宮坂浩章 七重
 山衛守 貴博 知子 川口泰介 あゆみ
 福本哲二 佳子

七五三詣
 七五三衣裳展示会7月7日より
 毎日朝10時〜夕方5時まで開催

七五三年齢表
 七歳 女児 平成19年生
 五歳 男児 平成21年生
 三歳 男・女児 平成23年生

※生まれ年と年齢は数え年によるものです。満年齢でお受け頂いても差し支えございません。

緑豊かな都心の杜。
 感動の瞬間

初詣 集宴
 衣装・美容着付・写真・初宮饗膳(ご会食)など承ります。

清涼殿 03(3312)7515

御鎮座九百五十年式年記念

フォトコンテスト開催

都心の中にありながら広大な境内を有し、周囲を豊かな自然に囲まれた当宮は、四季折々に様々な花が咲き誇り木々が生い茂り、参拝者の目を楽しませております。

そんな当宮の自然や行事風景を、プロ・アマ問わず写真愛好家の方々の目で写し撮って、その作品を八幡大神様にご奉納頂き、平成26年のわかば祭り(春の大祭)期間中に展示し、ご参拝の皆様楽しんで頂きたく、御鎮座九百五十年式年の奉祝行事としてフォトコンテストを開催致します。
どうぞ皆様奮ってご参加頂きますようご案内申し上げます。

応募期間

平成25年4月1日(土)
平成26年3月31日(1年間)



Aコース..2Lサイズ部門
Bコース..4ツ切サイズ部門
大宮八幡宮に関係した作品であれば、風景・人物・行事等テーマは自由です。但し、各神事での撮影禁止事項をお守り下さい。

プロ・アマ・年齢不問
小・中・高校の学生さんも歓迎!

両コース共に、写真店での現像にてご応募下さい。(一人5点まで)
応募作品についての注意事項は、社頭やHP上にて要項をご確認下さい。

協力写真店

- ホッタカメラ本店(浜田山)
- フォトグラフ三光堂(大宮八幡宮入口)
- パレットプラザ永福町店(永福町)
- カメラハウス本店(久我山)
- ストックワーク(中野)

◆応募票に必要事項を記入して、右記協力写真店に持ち込むと、参加作品に限りプリント代20%オフの特典があります。

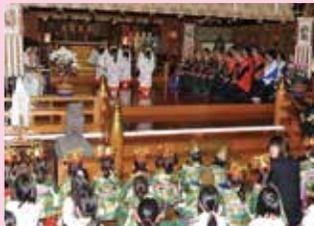
※入賞作品の著作権は応募者本人に帰属しますが、使用権は主催者に帰属するものとし、展示や当宮の出版物・広報・インターネット等に無償で使用させて頂きます。(※各媒体掲載時には、氏名のみを掲載させて頂きます。)

式年大祭 奉祝神賑行事

3日..古武道武技奉納



3日..こどもの祭り



4日..杉並太鼓奉納演奏



4日..方南エイサー踊り



5日..野点茶会



5日..佼成雅楽会舞楽・神楽



5日..^雅太鼓奉納演奏



6日..植樹祭



大 宮 第96号
 平成25年 御鎮座950式年大祭号
 平成25年5月1日発行
大宮八幡宮社務所
 〒168-8570
 東京都杉並区大宮2-3-1
 電話 (3311)0105 FAX(3318)6100
 Mail : info@ohmiya-hachimangu.or.jp